
第4章 今後に向けて

4 - 1 ソーシャル・キャピタル活用の考え方

援助を受け入れる社会のソーシャル・キャピタルのあり方が、プロジェクトの成果に大きな影響を与えるのだとすれば、開発援助を行う側としては、いくつかの対応戦略が考えられる。

まず第一に、「既存のソーシャル・キャピタルの活用アプローチ」が考えられる。これは、プロジェクトの成功率を上げるために、あらかじめプロジェクトの成果を促進させ得るようなソーシャル・キャピタルが存在するところをプロジェクト対象地域に選定し、より少ないコストで、より確実に成果を達成することを目指すものである(例：新しい農業技術に高い関心があり、かつ行政との関係も良好なコミュニティを農業技術普及のモデル・コミュニティに選ぶ)。プロジェクト選定の基準とはしないまでも、プロジェクト目標達成のために活用できそうなソーシャル・キャピタルを見だし、それを活用しつつプロジェクトを実施することも「既存のソーシャル・キャピタルの活用アプローチ」と呼べるであろう。

ただし既存のソーシャル・キャピタルをプロジェクト目的のために活用するためには、あらかじめ何がプロジェクトにとって好ましいソーシャル・キャピタルであるかが特定されており、その上でそれを測定・評価する手法が整っていなければならない。また、プロジェクト目的に対してポジティブな影響を及ぼし得るソーシャル・キャピタルが特定されたとしても、そのようなソーシャル・キャピタルが存在する地域ばかりをプロジェクト対象とすると、本当に援助が必要な地域が対象から外れてしまう危険性があることに留意する必要がある。プロジェクト目的に対して好ましいソーシャル・キャピタルがある地域はある程度独自に開発努力を行える力をもった地域であり、このようなソーシャル・キャピタルがない地域は独力では開発を進めることができず、外部からの支援を必要としている地域であるとも考えられる

からである。そのため、プロジェクト目的に対してポジティブな影響を及ぼし得るソーシャル・キャピタルが存在する地域をプロジェクト対象地とする場合には、その他の地域への成果の普及も念頭に置いておく必要がある。

ソーシャル・キャピタルに対する対応戦略の第二としては、「ソーシャル・キャピタルの育成・強化アプローチ」が考えられる。これは、プロジェクト目的に対して好ましいソーシャル・キャピタルがあるような理想的な地域を求めるのではなく、それ以外の指標（保健衛生水準、所得水準、人々のニーズの切実さなど）によってプロジェクト対象地域を選定し、通常のプロジェクト活動（トレーニング、教育、技術指導など）を実施すると並行して、プロジェクト目標の達成に必要なソーシャル・キャピタルの発見・強化・育成のための活動を行い、同時にプロジェクト終了後の持続性の確保につなげる、というアプローチである。

この変種としてプロジェクト目的達成に対する阻害要因となる既存のソーシャル・キャピタルを減少もしくは変容させる活動が必要となる場合もある。これは「既存のソーシャル・キャピタルの変容アプローチ」と呼ぶことができよう。

しかし、ここで注意すべきは、ソーシャル・キャピタルはその地域社会の文化・社会状況に根ざして形成・維持されてきたモノであり、外部者が、短期的なプロジェクトの都合だけで作ったり、壊したりすることには極めて慎重であるべきだ、という点である。プロジェクトにとってはネガティブなインパクトをもつソーシャル・キャピタルでも、対象地域の人々にとっては別の重要な働きをするものであるかもしれず、それを安易に否定するのは望ましくない（例：規則よりも血縁者の利害を優先させる規範があり、それが制度の適切な運営を妨げていたとしても、住民の生存戦略としては血縁者同士の相互扶助が重要である場合があり、単にルール違反を責めても解決にならないことがある）。そのため、特に「形成・強化」アプローチや「変容」アプローチをとろうとするならば、働きかけの対象となるソーシャル・キャピタルが、実際にどのようにプロジェクトの成果に影響を与えているのか、またプロジェクト以外で住民の生活にどのような働きをしているのかを実証的に検討する作業が必要であろう。

実際の協力においては、ソーシャル・キャピタルを明確に意識していなくても、上記の「既存のソーシャル・キャピタルの活用アプローチ」、「ソーシャル・キャピタルの育成・強化アプローチ」、「既存のソーシャル・キャピタルの変容アプローチ」を組み合わせることで実施していることが多いのではないかとと思われる。今後、ソーシャル・キャピタルを明確に意識して働きかけを行っていく際には、それぞれのアプローチについて上記で指摘したような留意事項にも配慮することが必要となろう。

4 - 2 具体的提案

では、JICAにおいてソーシャル・キャピタルの概念を活用して事業効果を高めていくためには具体的にはどのように取り組んでいったらよいのであろうか。ソーシャル・キャピタルと開発との関係はまだ実証されたわけではなく、今後経験を積み重ねて検証していくことが必要であるが、経験を積み重ねるためにもソーシャル・キャピタルを意識した取り組みを実施していくことが肝要である。そのため、以下では、JICAの取り組みを、ソーシャル・キャピタルが重要となり得るコア・プロジェクトにおける取り組み、すべてのプロジェクトにおけるソーシャル・キャピタルへの配慮、JICAの事業方針への反映(中期的課題)の3つに分けて検討する。

4 - 2 - 1 ソーシャル・キャピタルが重要となり得るコア・プロジェクトにおける取り組み

この調査研究では開発において特に着目すべきソーシャル・キャピタルとして関係者/機関間をつなぐ「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルと関係者/機関内の結束力を高める「内部結束型」ソーシャル・キャピタルを提示し、「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルと「内部結束型」ソーシャル・キャピタルを相互に作用させて関係者/機関間のシナジーを構築することが重要であることを指摘した。また、関係を形成する上でも内部の結束力を高める上でも「制度的」ソーシャル・キャピタルとそれを機能させる「認知的」ソーシャル・キャピタルも重要であることを示唆した。

開発における関係者は様々であり、関連するソーシャル・キャピタルも多様であるが、この調査研究では、ODAの実施機関であるJICAにとっては行政とコミュニティの関係づくりが特に大きな意味をもつと考えた。通常JICAのカウンターパートとなるのは相手国の行政機関であるが、プロジェクトの成果がカウンターパートである行政だけにとどまらず最終受益者まで届き、その成果が持続、発展するためには、行政とコミュニティの良好な関係づくり(シナジー関係の構築)が重要だと考えられるからである。

また、活動が効果的に行われるためには関連する行政機関間の横の連携や、NGOや関連する民間との協力、住民組織間のつながりなど、横の(水平的・橋渡し型)ソーシャル・キャピタルも重要となる。

行政とコミュニティの関係づくりや組織間連携が特に重要となるプロジェクトとしては、例えば複数のセクターに同時に働きかける村落開発プロジェクト、森林保全など行政とコミュニティが共同で持続可能な資源管理を行うプロジェクト、住民を最終受益者とした普及型プロジェクト、住民参加が原則となるプライマリ・ヘルスケアプロジェクトなどが考えられる。また、教育に関しては特に基礎教育においてコミュニティの理解や協力が重要になる。このようにソーシャル・キャピタルへの配慮が不可欠なプロジェクト(ここで仮にコア・プロジェクトと呼ぶ)においては、プロジェクトの形成段階から終了後まで一貫してソーシャル・キャピタルを明確に意識し、プロジェクトの各段階にソーシャル・キャピタルへの対応を織り込んでいく必要がある。

プロジェクト・サイクルに即して具体的に述べてみよう。まず、事前の調査段階では課題の全体像をおさえ、他の資本(人的、物的、自然、金融など)とソーシャル・キャピタルの関係がどうなっているか、ある課題の解決に対してソーシャル・キャピタルの果たす役割は何かを把握する。調査方法としては、JICAのプロジェクトで一般に用いられているPCM手法で参加者分析、問題分析、目的分析の各段階においてソーシャル・キャピタルも意識して分析を行うとともに、第3章で例示したPRAなどの参加型調査手法も活用して対象地域の社会状況やソーシャル・キャピタルの現状調査を行うことが必要である。第3章で紹介した世界銀行のSCATやDFIDのSLアプローチで用いられている調査手法や調査項目も参考になるだろう。ただし、調査項目や質

問内容は現地の状況やプロジェクト目的に合わせて工夫しなければならないことはいうまでもない。ソーシャル・キャピタルを調査する際には、この報告書で着目すべきソーシャル・キャピタルとして挙げた内部結束型／橋渡し型ソーシャル・キャピタルや認知的／制度的ソーシャル・キャピタルなどを念頭に置きつつ、関係者ごとに関連するソーシャル・キャピタルを検討する（例：行政・コミュニティ間、行政内部、コミュニティ内部それぞれにおける規範、価値観（認知的ソーシャル・キャピタル）、制度、ネットワーク、役割（制度的ソーシャル・キャピタル）がどのようになっているか、それはなぜか）。内部結束型／橋渡し型や認知的／制度的などを意識的に考えることにより対象を明確化でき、アプローチの方法や指標なども検討しやすくなる。

計画段階では、調査で得られた結果に基づき、プロジェクト目的達成のために活用できそうなソーシャル・キャピタルや形成すべきソーシャル・キャピタルを具体的に検討して計画（PDM）にそれらを可能な限り明示し、指標も記載する（指標に関しては第3章参照）。「信頼」「規範」「ネットワーク」などの社会的要素をソーシャル・キャピタルととらえることの意義の1つはこれらを可視化し、働きかけの対象として明確に意識することにあるので、JICAのプロジェクトで一般に用いられているPDMにもできるだけソーシャル・キャピタルを記載することが望ましい。PDMに記載する際には、どの関係者に関するどのようなソーシャル・キャピタルなのかを具体的に提示し、対象を明確化することが肝要である。

ただし、PDMにすべてを記載できるわけではない。PDMは1つのプロジェクト目的に対して原因 - 結果が直線的につらなる論理構成となっているが、ソーシャル・キャピタルに関しては原因 - 結果という方向の関係だけでは説明できないことも多く、1つのプロジェクト目的以外にもインパクトが波及する可能性が大きいからである。例えば行政とコミュニティの間のシナジー関係が構築されれば、プロジェクトで対象としていたこと以外にも自発的に行政とコミュニティが協働して取り組み始める可能性があるが、PDMではプロジェクト・スコープ以外に波及するソーシャル・キャピタルのインパクトを見ることは難しい。そのため、計画段階ではPDMに含まれない側面も視野に入れ、モニタリング／評価の際にプロジェクト・スコープ以外に波及し得るソーシャル・キャピタルのインパクトを調査できるベースを作って

おく。

実施段階では、プロジェクト活動によって重要と思われるソーシャル・キャピタルがどのような影響を受けているのか、またソーシャル・キャピタルがプロジェクト成果の発現にどのような影響を与えているかを常にモニターし、プロジェクトからの有効な働きかけの方法を模索する。ソーシャル・キャピタルへの働きかけの例としては、教育・研修、行政とコミュニティを結ぶ制度づくり、制度によるメリットの明確化、関係者が参加する定例会議による情報交換・意見交換の促進、効果があがっている地区の視察などがある。ただし、ソーシャル・キャピタルはある働きかけを行えば必ず形成されるというものではない。特に「認知的」ソーシャル・キャピタルの形成や強化のためには、単に「このような規範が重要だ」などと伝えるだけでは十分ではなく、関係者自らが納得し、その重要性を実感することが必要である。そのためには十分時間をかけてソーシャル・キャピタルの重要性やメリットを確信してもらうことが重要である。また、シナジーを生み出すほどの信頼関係は築こうとして築けるものではなく、関係者が互いに誠意をもって接し続けた結果としてはじめて形成されるものである⁴⁸（バングラデシュ農村開発プロジェクトにおけるユニオン協議会会議は月に1回の会合を積み重ねることで、ユニオン議会、政府の末端ワーカー、村人の代表、NGOの間に信頼関係が醸成されている）。外部者はこのようなソーシャル・キャピタルの育成や強化に対して働きかけることはできても、実際にそれを形成・強化するのは関係者自身である。このことをよく認識した上で、外部者はファシリテーターとしてソーシャル・キャピタルの形成・強化のための環境づくりを働きかけていくべきであろう。

実施段階では、調査段階や計画段階では意図していなかったことが起こり得る。例えば、注目していなかった関係者や彼らにかかわるソーシャル・キャピタルがプロジェクトに大きな影響を与えていることが分かったり、重要と想定していたソーシャル・キャピタルに対する働きかけが困難であったり、ソーシャル・キャピタルに対して働きかけた結果予期しないマイナスのインパクトが生じてしまったりすることもある。その際は実態を踏まえて柔

⁴⁸ ベーカー(2001)はソーシャル・キャピタル形成には見返りを求めない相互支援が必要、といっている。

軟に計画を修正することが必要となる。

評価段階においては、第3章で紹介したような手法を用いて、どのようなソーシャル・キャピタルがどのような働きかけを通じてどの程度強化・形成されたか(あるいは減少したか)、またソーシャル・キャピタルがプロジェクトにどのようなインパクトを与えたのかを調査・検討する。PDMに掲載されているものについては、PDMが評価のベースになる。しかし、第3章で述べたように、ソーシャル・キャピタルは直接計測することは困難なためPDMで掲載している指標は間接的なものである。指標の変化がソーシャル・キャピタルの変化やインパクトを直接的に表すものではないことに留意が必要である。評価の際にはソーシャル・キャピタル以外の要因による指標の変化の可能性やプロジェクト以外の要因による影響の可能性も検討しつつ調査を行うようにしなければならない。また、ソーシャル・キャピタルのインパクトはPDMの中だけでは把握できないものもあることから、PDMでカバーされている範囲以外におけるソーシャル・キャピタルの影響も調査する必要がある。とりわけ社会開発的なプロジェクトにおける、予期しない影響を含めたインパクト調査では、ソーシャル・キャピタルの考え方は多くの示唆を与えらると思われる。

ソーシャル・キャピタルはプロジェクト成果を持続させることにも大きな影響を与えらるため、プロジェクト終了後数年を経た時点で事後評価を行い、ソーシャル・キャピタルがプロジェクト成果の持続性に与えた影響を検証する。

このようなプロセスの積み重ねを通じて、どのような課題に対してどのような関係者やソーシャル・キャピタルが重要なのか、このようなソーシャル・キャピタルを強化・形成するためにはどのようなアプローチをとり得るのか、ソーシャル・キャピタルを計測する際の指標や調査方法にはどのようなものがあり得るのか、といった経験を蓄積していくことが重要である。このような蓄積が、4-2-3で述べるようなソーシャル・キャピタルと開発の関係の検証やモデル化、ソーシャル・キャピタルにも配慮した開発戦略づくりの土台となり、より持続可能な開発が可能になるものと考えられる。

4 - 2 - 2 すべてのプロジェクトにおけるソーシャル・キャピタル配慮

4 - 2 - 1で述べたコア・プロジェクト以外の案件においても、ソーシャル・キャピタルへの配慮は必要である。なぜならば、どのようなプロジェクトにおいても関係者の信頼関係や規範、ネットワークといったソーシャル・キャピタル的な要素が影響を与えるからである。この調査研究では特に行政とコミュニティの「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルに着目すべきではないかと提言しているが、案件によっては中央行政と地方行政の橋渡しが重要であったり、省庁間の橋渡しが重要であったりするであろう。また、カウンターパート機関内の組織づくりや規範形成が必要な場合も多い。そのため、どのプロジェクトにおいてもソーシャル・キャピタルを意識することは必要であり、必要に応じてソーシャル・キャピタルに働きかけていくことが求められる。ただし、その際にはマニュアルに従って画一的な対応をするのではなく、プロジェクトの目的や現地の状況に合わせて柔軟な対応を検討していく必要がある。

4 - 2 - 3 JICAの事業方針への反映(中期的課題)

ソーシャル・キャピタルについては、その重要性は認識されてきているものの、具体的な活用可能性がまだ定かではない。このため今後ソーシャル・キャピタルに関する協力経験や教訓を蓄積し、それらを基にソーシャル・キャピタルと開発の関係を検証し、モデル化して、JICAの開発戦略の中に組み込めるかどうか検討していくことが望ましい。具体的には、「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルや「内部結束型」ソーシャル・キャピタルと開発の関係や、「制度的」ソーシャル・キャピタルと「認知的」ソーシャル・キャピタルがどのように影響を与え合っているかを詳細に検討し、行政とコミュニティのシナジー形成のモデルをつくることが考えられる。英国のDFIDはSustainable Livelihoods(持続可能な生計)の概念の中で、ソーシャル・キャピタルを持続可能な生計に必要な5つの資本の1つとして位置づけており、持続的な生計という目的に対してソーシャル・キャピタルがどのような役割を果たすのか、どのような手法を用いてどのようにアプローチしていくのか、などといったことを整理している。JICAも独自の経験を積み重ね、開発におけるソーシャル・キャピタルの役割や影響を検討し、着目すべきソーシャ

ル・キャピタルやアプローチ方法、留意点などを整理していくことが必要ではないだろうか。経験から教訓を引き出して具体的なソーシャル・キャピタル配慮のガイドラインを作成することも将来的には可能であろう。ただし、着目すべきソーシャル・キャピタルやそれへのアプローチ方法、ソーシャル・キャピタルが影響する度合いなどは現地の状況やプロジェクトの目的によって異なるため、ガイドラインを作成する場合には柔軟に運用できるものとする必要がある。また、指標のサンプルや事例を蓄積していき、プロジェクト実施者が参考にできる情報を提供できるようにすることが望ましい。

ソーシャル・キャピタルの開発における役割や影響が検証されれば、ソーシャル・キャピタルの活用を含んだ包括的な開発戦略を検討することも必要となる。

4 - 3 留意点

ソーシャル・キャピタルの概念はより客観的かつ詳細に社会と開発の関係を分析することに役立つ。しかし、ソーシャル・キャピタルの概念を活用する際にはいくつか留意すべき事項もある。

4 - 3 - 1 ソーシャル・キャピタルの具体的提示

目的や状況に応じて働きかけるソーシャル・キャピタルをその都度、具体的に検討する必要がある。その社会の状況やプロジェクトの目的によって着目すべきソーシャル・キャピタルは変わってくるため、「開発に必要なのはこのソーシャル・キャピタル」などといった画一的な考え方に陥らないように留意しなければならない。また、ソーシャル・キャピタル的な要素を合算して社会の評価をするというような考え方は適切ではない。あくまでも目的や状況に応じて具体的な要素を検討していくべきである。その際には、「ソーシャル・キャピタル」とひとくくりにするのではなく、「行政とコミュニティの信頼関係づくり」などのように具体的に提示するようにする。そうすることによって、対応策も具体的に検討できるようになるからである。

4 - 3 - 2 介入の影響への配慮

ソーシャル・キャピタルに働きかける際には介入の影響への注意深い配慮が必要である。介入の影響としては外部者への依存、既存のソーシャル・キャピタルの消耗、意図しない影響の発生、などが考えられる。

(1) 外部者への依存

ドナーなどの外部者がその社会に介入することによって、依存状態をつくり出してしまふことが往々にしてある。この調査研究では特に「行政」と「コミュニティ」の「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルに着目したが、外部者が「橋渡し役」になってしまふのは外部者がいなくなった後に「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルがなくなってしまう危険性がある。ソーシャル・キャピタルは、現地に根付き、地元の資源となることによって成果の持続性を高めるものであるのだから、外部者はこのような依存ができるだけ起きないよう配慮する必要がある。ソーシャル・キャピタルを強化・形成しようとする際には外部者は自身を「橋渡し役」ではなく、「橋渡し」を促進するファシリテーターと考え、外部者がいなくなった後も持続的にそのソーシャル・キャピタルが存在するように考えなければならない。

(2) 既存のソーシャル・キャピタルの消耗

ソーシャル・キャピタルに着目し、ソーシャル・キャピタルを効果的に活用しようとすることは必要であるが、アプローチのやり方によっては既存のソーシャル・キャピタルを「すり減らし」てしまう危険性もある。例えば、既存の「相互扶助」の規範を利用して住民にプロジェクト目的のための共同作業をしてもらおうということを繰り返していると、住民は度重なる「タダ働き」に不満を抱き、「相互扶助」の規範が薄れてしまう危険性もある。外部者の不用意な介入によって住民の生活を支えていたソーシャル・キャピタルを損なわないよう、慎重な配慮が必要である。

(3) 意図しない影響

ソーシャル・キャピタルに対する働きかけによって、その社会の仕組みや考え方が変わる可能性があり、その変化が思わぬ方面に波及してしまうこと

もあり得る。例えば、トップダウンが一般的な国において、ある分野における住民の自立的な問題解決能力や意思決定能力が向上するように働きかけた場合、他の分野においても住民が自発的な問題解決や意思決定を求めるようになることが考えられる。その場合には住民と政府との対立が引き起こされる可能性もある。

また、対象集団の中には多数派と少数派、有力者と社会的弱者などが異なる構成員が含まれていることもあり、ソーシャル・キャピタルへの働きかけによって少数派の意見が無視されたり、有力者がさらに有利になるような制度や関係が構築されてより格差が広がるということもあり得る。

ソーシャル・キャピタルを形成・強化するように働きかける場合にはこのような意図しない影響が出てくる可能性もあり得ることに留意する必要がある。そのため、ソーシャル・キャピタルの形成・強化や変容については、外部から性急に押しつけるのではなく、十分時間をかけ、あるソーシャル・キャピタルの形成・強化や変容の必要性について関係者の納得を得て、関係者自らがソーシャル・キャピタルを形成していこうとすることが重要である。そしてその際には少数派や社会的弱者の声が無視されないよう、できるだけ配慮することが肝要である。

4 - 4 開発プロセスを自立的に担う力としてのソーシャル・キャピタル

開発プロセスには多くの関係者(ステークホルダー、アクター)が関与する。しかしながら、様々な理由によってこのアクター間には意思の疎通がなく、また信頼関係がない場合も少なくない。当事者間ではなかなか交渉ができない問題も、外部者が介入することによってきっかけができ、何度かの試行錯誤ののちに好ましいやりとりが経験されれば、それ以降は互いの働きかけの相乗効果(シナジー効果)で、既存の資源を有効に活用することができるようになることは多い。利害が対立する、あるいはこれまでの歴史的経緯から互いに信頼関係のないアクター間のコミュニケーションを促進し、アクター間のシナジー関係を成することは、当事者のもたない知識・資金を有し

ている外部ドナーには比較的容易なことである。

ドナーはいずれ去っていく外部者である。このことを認識するならば、現地の人々が開発のプロセスを自立的に担っていける力をつけるような働きかけを伴った協力を実施すべきである。この自立的に発展する社会の力をソーシャル・キャピタルと読み替えることも可能である。ドナーが関与する一定の期間、このソーシャル・キャピタルを強化・育成することを明確に認識することで、プロジェクトの持続可能性が高まることが期待できるのではないだろうか。

最後に、いうまでもないことだが、ソーシャル・キャピタルがすべての問題を解決するわけではなく、他の要因も視野に入れた上で、総合的に考えることが重要である。ソーシャル・キャピタルは今まで見えにくかった社会的要因を客観的にとらえるのに有効な概念である。ソーシャル・キャピタルの概念を用いて社会的要因を可視化した上で、他の要素との関係やソーシャル・キャピタル間の関係を分析し、開発課題を包括的にとらえ、開発の成果をあげるように取り組んでいくことが肝要である。

参考文献

- 宇沢弘文(2000)『社会的共通資本』岩波新書
- 国際協力事業団医療協力部(1998)『JICAプライマリ・ヘルスケア(PHC)の手引き - すこやかな地域社会を目指して - 』
- 国際協力事業団国際協力総合研修所(1995)『貧困問題とその対策：地域社会とその社会的な能力育成の重要性』
- (1996)『開発援助プロジェクトにおける社会的能力の活用に向けた基礎研究』
- 佐藤寛編(2001)『援助と社会関係資本 - ソーシャルキャピタル論の可能性』日本貿易振興会アジア経済研究所
- 電通総研(1999)『世界23カ国価値観データブック』同友館
- プロジェクトPLA編(2000)『続入門社会開発PLA：住民主体の学習と行動による開発』国際開発ジャーナル社
- ベーカー，ウェイン(2001)〔中島豊訳〕『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社
- 安田雪 (1997)『ネットワーク分析』新曜社
- 山岸俊男(1998)『信頼の構造』東京大学出版会
- (1999)『安心社会から信頼社会へ』中公新書
- (2000)『社会的ジレンマ』PHP 新書

< 外国語文献 >

- Adler, P. and Kwong, S.W. (1999) *Social Capital: The Good, The Bad, and The Ugly*, World Bank Social Capital Library, Papers in Progress.
- Arrow, K. (2000) "Observations on Social Capital", in Dasgupta, P. and I. Stiglitz, *Social Capital: A Multifaceted Perspective*, Washington D.C.; The World Bank.
- Ashley, C. and D. Carney (1999) *Sustainable Livelihoods: Lessons from Early*

- Experience*, London; Department for International Development.
- van Bastelaer, T. (1999) *Does Social Capital Facilitate the Poor's Access to Credit? A Review of the Microeconomic Literature*, Social Capital Initiative Working Paper No.8, Washington D.C.; The World Bank.
- Bates, R. (1999) *Ethnicity, Capital Formation, and Conflict*, Social Capital Initiative Working Paper No.12, Washington D.C.; The World Bank.
- Beall, J. (1997) "Social Capital in Waste – A solid Investment?", *Journal of International Development*, Vol.9, No.7, pp.951-61.
- Bourdieu, P. (1986) "The Forms of Capital", in Richardson, J.G. *Handbook of Theory and Research for the Sociology of Education*, Westport, Connecticut; Greenwood Press.
- Carney, D. (ed.) (1998) *Sustainable Rural Livelihoods: What Contribution Can We Make?*, London; Department for International Development.
- Carney, D. et al. (1999) *Livelihoods Approaches Compared: A Brief Comparison of the Livelihoods Approaches of the UK Department for International Development (DFID), CARE, OXFAM and the United Nations Development Programme*, London; Department for International Development.
- Chambers, R. and G. Conway (1992) *Sustainable Rural Livelihoods: Practical Concepts for the 21st Century*, IDS Discussion Paper 296, Brighton; Institute of Development Studies.
- Coleman, J. (1988) "Social Capital in the Creation of Human Capital", *American Journal of Sociology*, 94: Supplement, pp.95-120.
- (1990) *Foundations of Social Theory*, Cambridge, Massachusetts; Harvard University Press.
- Colletta, N. and M. Cullen (2000) *The Nexus between Violent Conflict, Social Capital and Social Cohesion: Case Studies from Cambodia and Rwanda*, Social Capital Initiative Working Paper No.23, Washington D.C.; The World Bank.
- Collier, P. (1998) *Social Capital and Poverty*, Social Capital Initiative Working Paper No.4, Washington D.C.; The World Bank.
- DFID (1997) *Eliminating World Poverty: A Challenge for the 21st Century*, White Paper on International Development, London.

- (1999) *Sustainable Livelihoods Guidance Sheets*, London.
- Evans, P. (1996) "Government Action, Social Capital and Development: Reviewing the Evidence on Synergy", *World Development* Vol.24, No.6, pp.1119-32.
- Fafchamps, M. and Minten, B. (2001) "Social Capital and Agricultural Trade," *American Journal of Agricultural Economics*, 83(3) pp.680-685.
- Fine, B. (2001) *Social Capital versus Social Theory: Political economy and social science at the turn of the millennium*, London, Routledge.
- Fine, B. and F. Green (2000) "Economics, Social Capital, and the Colonialization of the Social Sciences", in Baron, S., J. Field and T. Schuller (eds.), *Social Capital: Critical Perspectives*, New York; Oxford University Press.
- Fox, J. (1996) "How does Civil Society Thicken? The Political Construction of Social Capital in Rural Mexico", *World Development* Vol.24, No.6, pp.1089-103.
- Glaeser, E. L., Laibson, D. I., Scheinkman, J. A. and Soutter, C. L. (2000) "Measuring Trust," *Quarterly Journal of Economics*, 115(3) pp.811-846.
- Granovetter, M. S. (1973) "The Strength of Weak Ties," *American Journal of Sociology*, 78(6), pp.1360-1380.
- Grootaert, C. (1997) *Social Capital: The Missing Link?*, Social Capital Initiative Working Paper No.3, Washington D.C.; The World Bank.
- Grootaert, C. and T. van Bastelaer (2001) *Understanding and Measuring Social Capital: A Synthesis of Findings and Recommendations from the Social Capital Initiative*, Social Capital Initiative Working Paper No.24, Washington D.C.; The World Bank.
- Hanifan, L. (1916) "The Rural School Community Center", *Annals of the American Academy of political and social Science*, Vol.67, pp.130-38.
- Harris, J. and P. de Renzio (1997) "Missing Link of Analytically Missing?: the Concept of Social Capital – An Introductory Bibliographic Essay", *Journal of International Development*, Vol.9, No.7, pp.919-37.
- Isham, J. and Kahkonen, S. (1999) *What Determines the Effectiveness of Country-Based Water Projects? Evidence from Central Java, Indonesia on Demand Responsiveness, Service Rules, and Social Capital*, Social Capital Initiative Working Paper No.14, Washington D.C.; The World Bank

- Knack, S. (1999) *Social Capital, Growth and Poverty: A Survey of Cross-Country Evidence*, Social Capital Initiative Working Paper No.7, Washington D.C.; The World Bank.
- Knack, S. and Keefer, P. (1997) "Does Social Capital Have an Economic payoff? A Cross-Country Investigation," *Quarterly Journal of Economics*, 112(4) pp.1251-1288.
- Krishna, A. and Shrader, E. (1999) *Social Capital Assessment Tool*, Washington D.C.; The World Bank.
- Krishna, A. and Uphoff, N. (1999) *Mapping and Measuring Social Capital: A Conceptual and Empirical Study of Collective Action for Conserving and Developing Watersheds in Rajasthan, India*, Social Capital Initiative Working Paper No.13, Washington D.C.; The World Bank
- Levi, M. (1996) "Social and Unsocial Capital: A Review Essay of Robert Putnam's Making Democracy Work", *Politics and Society* Vo.24, No.1, pp.45-55
- Lin, N. (2001) *Social Capital: A Theory of Social Structure and Action*, Cambridge; Cambridge University Press.
- Maluccio, J., Haddad, L. and May, J. (2000) "Social Capital and Household Welfare in South Africa, 1993-98," *Journal Development Studies*, 36(6) pp.54-81.
- Narayan, D. (1999) *Bonds and Bridges: Social Capital and Poverty*, Poverty Group, PREM, The World Bank.
- Narayan, D. and L. Pritchett (1996) *Cents and Sociability: Household Income and Social Capital in Rural Tanzania*, The World Bank: Policy Research Working Paper No.796.
- Narayan, D. and Pritchett, L. (1999) "Cents and Sociability: Household Income and Social Capital in Rural Tanzania," *Economic Development and Cultural Change*, 47(4) pp.871-897.
- Pargal, S., Huq, M. and Gilligan, D. (1999) *Social Capital in Solid Waste Management: Evidence from Dhaka, Bangladesh*, Social Capital Initiative Working Paper No.16, Washington D.C.; The World Bank
- Portes, A. (1998) "Social Capital: Its Origins and Applications in Modern Sociology", *Annual Review of Sociology*, Vol.24, pp.1-24.

- Portes, A. and P. Landolt (1996) "The Downside of Social Capital", *The American Prospect*, No.26, pp.18-21.
- Putnam, R. (1993) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton, New Jersey; Princeton University Press.
- Putzel, J. (1997) "Accounting for the 'Dark Side' of Social Capital: Reading Robert Putnam on Democracy", *Journal of International Development*, Vol.9, No.7, pp.939-49.
- Reid, C. and L. Salmen, (2000) *Agricultural Extension in Mali: Trust and Social Cohesion*, Social Capital Initiative Working Paper No.22, Washington D.C.; The World Bank.
- Serra, R. (1999) 'Putnam in India': *Is Social Capital a Meaningful and Measurable Concept at Indian State Level?*, IDS Working Paper 92.
- Solow, R. (2000) "Notes on Social Capital and Economic Performance" in Dasgupta, P. and I. Serageldin, *Social Capital: A Multifaceted Perspective*, Washington D.C.; The World Bank.
- Tarrow, S. (1996) "Making Social Science Work Across Space and Time: A Critical Reflection on Robert Putnam's Making Democracy Work", *American Political Science Review* Vol.90, No.2 (June), pp.389-397.
- Tendler, J. (1997) *Good Government in the Tropics*, Baltimore; Johns Hopkins University Press.
- Uphoff, N. (2000) "Understanding Social Capital: Learning from the Analysis and Experience of Participation" in P. Dasgupta and I. Serageldin (Eds.), *Social Capital: A Multifaceted Perspective*. Washington D.C.; The World Bank.
- Woolcock, M. and D. Narayan (2000) "Social Capital: Implications for Development Theory, Research, and Policy", *The World Bank Research Observer* Vol.15, No.2, pp.225-49.
- World Bank (2000) *World Development Report 2000/2001: Attacking Poverty*, New York; Oxford University Press.